

00-01-02 — 育児と育児学 —

京都の舞妓さんが大阪弁で話をしたらイメージが変わってしまうように、“ことば”はその土地の風俗・習慣等が生活に密着しながら“伝承”されて来たものです。地方地方で“伝承”されて来た味のある言葉が“方言”です。ところが、明治になり、日本国の軍隊として全国各地から集められた兵士たちは、**方言方言の集団**(日本語、英語、フランス語・・・しか話せない人達の集りと同じ)であり、**命令が正確に伝わりません**。そこで、軍隊内での“**共通語の教育**”から始まり、更に**小学校の「国語」の授業**で教え、全国に広まったのが“**標準語**”です。

“**伝承であった育児**”も同様で、戦後の高度成長期には、地方の中学校を卒業した**若者が毎年集団就職列車で上京**し日本の経済発展に寄与しました。成人して**結婚・出産・育児**となっても身近に相談相手(親や姉妹)がいませんでした。頃を同じくして「**スポック博士(アメリカの小児科医)の育児書**」(当時、日本には育児書は無く、結婚式では2冊も3冊も頂いたという話があちこちで聞かれた／後年、博士は**謝罪会見や何度も修正を重ねた**ことを付記します)が発売されました。

一方、当時の祖父母世代は、敗戦によるダメージが大きく、伝統的なもの全てに自信を無くしていたところへ、目からウロコの「(外国の)新しい育児法」が現れ、「**私たちは、古いから**」と、口を閉ざしてしまいました。さらに、乳幼児健診の実施(1960年～)と共に育児は、“**伝承**”から“**指導**”へと変わり、“**育児指導**”(＝**育児学**)という名の基に、日本全国均一化され“**伝承**”は消え去りました。

最近では、ネットなどに思い付き同然の育児法も氾濫しています。時には“**大おばあちゃん(＝曾祖母)**”から話が聞けたら、不安に思っていたことが一気に解消するかもしれません。長い年月の間に“**危険**”や 将来“**悪影響**”が残るものは“**自然消滅**”し、必要なもののみが**修正に修正を重ねながら伝承された**“**育児**”には、**子育てに悩んでいるお母さん方**への**ヒント**が隠されているかも知れません。

